半実話物語

こをり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

半実話物語

【Ｎコード】

Ｎ２５１１Ｎ

【作者名】

こをり

【あらすじ】

バカ５人が織り成す半実話物語！

今回のテーマは・・・夏だ！↑

（前書き）

少々汚い言葉が混じっていますがあまりお気になさらず
半分実話ですが少々いじってます
まぁ半分じゃなくて3分の2くらい実話ですw
去年の話なのであまり覚えておらず「半」にしときました

「よし！やるか！」
「「「「おー！！！！」」」」

夏と言えば青い空！白い雲！そして・・・流しそうめん！

と、まぁ行き成りなので自己紹介をさせていただきますね

レッド♂：身長１８０越え頭が凄くいいのに性格が残念。
何か口を開いたと思ったら残念な事ばかりでも面白い、歳は私より１つ上
ブルー♂：レッドと一緒によく悪乗りでやばい事をし始める。
でも時々すべる（笑）聞いた話じゃ学校ではアイドル状態（もちろんお笑いの）ピンクの弟
グリーン♀：私。主にツッコミ役だと信じて疑わない。身長が１５０だがくじけない
レッドとブルーと一緒に悪乗り大好き
イエロー♀：この中で一番まとも（？）悪乗りをする時としない時が分かれている
顔が綺麗（羨ましい）意外と食べる
ピンク♀：ほんわかしていて楽しい。悪乗りはもちろんする
いざと言う時はお姉さん。絵が得意、歳は私より１つ上ブルーの姉

私達はあまりの暇さ加減に何かやろうということで案を出し合った
その結果が・・・・流しそうめん

レッド「よし！竹切るべー！」

「「「竹切るべー！」」」

この時私は不在で４人でしていたらしくクソ暑い夏だというのに竹やぶに侵入した
太くて長く色がいいの、と口々に言い合いながら探す事１０分

ブルー「あ、これよくね？」
レッド「いいねwお～いこっちこっち！」
イエロー「長すぎない？」
ピンク「ってか持っていける？」
レッド「じゃぁ切るぞー！」↑（聞いてない

ガッガッ！鉈を力任せに切りながらすごく危ない笑顔で切っていくレッド
何もしてないのにグヒャヒャと笑っているブルー
かなり離れて見守るイエローとピンク
正直協調性って何？って状況だったらしい

バキバキッ！！

レッド「倒れるぞー！」
ブルー「よっしゃ！俺に任せろww」

ブルーは勇ましく竹をキャッチしようとしたがあまりのスピードと枝の多さに
よっしゃ！のしゃに来た時点で逃走。任せれねぇ

何はともあれ竹ゲット！
４人で運んで竹を真っ二つに割り節を彫刻等でくりぬく
イエローとピンクは黙々とした作業を暑い中がんばっている

だがあいつらはゲヒャゲヒャ笑いながら水遊び

イエロー「おーい！出来たよー」

とまぁこの時はなにも無く終了
え？何ですぐしないかって？私がいなかったからしいよ（仲間想いだよねぇ）
で、メールでレッドが竹のことを写メで教えてくれて明日楽しみだねーなんて言った

次の日
レッド「な、なんじゃこりゃぁぁぁぁあ！」
ブルー「俺も朝見たときは叫んだよ・・・」
グリーン「なんか写メで見たときより退化してるね？」

たぶん干からびたのか知らないが茶色くなって丸まっていた
１８０℃が３６０℃になったと言った方が分かりやすいかな？
４人はうなだれていたがしぶしぶまた竹を切る事に

レッド「そうめんの為ならえんやこーらえんやこーら！」
ブルー「朝昼飯のためならえんやこーらえんやこーら！！」

ブルー・・・朝飯食べろよ
今は１１時。少し急げばちょうどお昼ご飯になるだろう
急ピッチで竹を割り裂いて節を抜く
そこで問題発生

グリーン「なぁ流しそうめんやけど台なくね？」
ピンク「床において平行でやる？」

いや、それは流れないだろw

イエロー「これで良いべ」

イエローが指差した場所は干からび３６０℃回転している昨日の竹。

グリーン「お、いいねw縄ある？」
ブルー「イヤだぁ縛っちゃイヤだぁんww」
レッド「あるべあるべ」↑（聞いてない

ブルーはリアクションをレッドに期待していたみたいだけど見事にスルー
組み立ててから竹を設置。ホースを竹口まで伸ばして準備完了

グリーン「よし！流し素麺やるぞ！」
イエロー「誰流す？」
レッド・ブルー「「俺やる！」」
ピンク「どっちでも良いけど早くね」
レッド「言っとくけど今日おばあちゃんに親切にしたから俺流す！」
ブルー「はぁ？俺なんか小さい子に風船あげたしw」
グリーン「流すからキャッチしろよー」
レッド・ブルー「「よし！いつでも来い！！」」

結局悪のりしたかっただけの二人はキャピキャピしながら流し素麺を追う
私はお昼ご飯のおかげで腹いっぱいだったけど見てると食べなくなってきた

グリーン「かわってよ～」
イエロー「あ、じゃぁ私するわ」

ピンク「2人ともあんま騒ぐな！」
レッド「オイ！一気にとったら最後まで流れんじゃろ！」
ブルー「だって俺朝飯食ってないし」
レッド「関係な・・・あっ！」
「「「「？」」」」

レッドが指差した所を見ると・・・なにもない
なんだよ？と聞こうとレッドを見ると
シュバッ！

イエロー・ピンク「・・・・・」
グリーン「え？なにやってんだあいつｗｗ」
ブルー「やべぇまじかっけぇよｗｗｗ」

一人素麺
一人で流してダッシュで流れてる素麺をキャッチ
正直楽しそうじゃないし全然取れてないし

ブルー「俺が悪かったｗだからそんな事すなｗｗ」
レッド「べ、別に拗ねてなんか無いし！勘違いしないでよね！」
グリーン「お前が勘違いすんな」

レッドの一人素麺のせいで半分くらいなくなってしまった
まったく・・・と皆あきれてると

レッド「あっ！！」
ピンク「レッドしつこい！」
グリーン「何回も引っかからんて・・・・」
イエロー「・・・・シネ」
ブルー「・・・・」↑（爆笑しすぎて息が出来ない

そお、レッドはなぜか汁塗れになっている
おかげでズボンの●○○辺りがベットベト
素麺は残り少ないわ、汁はなくなるわで大惨事

レッド「な、なんだこりゃぁぁぁぁぁぁぁ！」

○●○●
レッド「むしゃくしゃしてやった。今は反省している」
イエロー「一発折るぞ」
レッド「おるの！？」
ピンク「お腹減ったなー」
レッド「本当にすいませんでした」
ブルー「お詫びにハーゲンダッツ買って来い」
グリーン「残り流すよー」
「「「「よし！こい！！」」」」

とまぁなんとか残りを流しあとちょっとで終了
いい思い出になったなーと思いつつ

レッド「ちょwブルー汗臭いんですけどww」
ブルー「お前は汁臭いww」
レッド「うるせww」

ブルーがレッドに近づくたびにレッドは下がるの繰り返し
女性陣はそれを見ながら素麺を流すと

イエロー「あっレッド邪魔か・・・・も」

ダシャァアン！！

「「「「「・・・・・」」」」」

レッドが何も考えずに後退するから流し台に激突
流るる素麺は宙を舞いブルーの肘にペシャ
二次災害、と言うやつですな

レッド「むしゃくしゃして」
イエロー「削ぐぞ」
レッド「そぐの！？」
グリーン「おら、四つん這いになれよサノバビッチが」
ブルー「オラの昼飯がぁ」

ピンク「あと片付け」

レッド「イエッサー！」

こうして、私達は中でレッドの奴隷っぷりを見ながらカキ氷を食べ
この夏を乗り切りましたとさ

（後書き）

今年はまだ何もやってないなぁ・・・
我慢大会とか暗闇かくれんぼとかやる予定なんですが・・・
まだまだ書いていきたいことはたくさんあります！
お暇つぶしくらいにと思ってくれれば幸いです

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2511n/

半実話物語

2010年10月10日22時02分発行